

1日の流れ(宣言明け リハビリ期間)

7:35 日直:児童玄関開錠
 ※10/1～学校運営協議会会長の吉田さん方が玄関周辺を掃除して下さるため

7:50 健康チェックスタート
 1、6年:体育用品収納口前
 2、3年:児童玄関前
 4、5年:体育館西側
 ↓
 石けんで手洗いして教室へ

8:15ごろ 健康観察
 ↓
8:25までに 職員室へ提出

10:10 20分休み

12:00 1回目 消毒
 (各箇所の掲示物参照)
 担当:ハートフル・鹿島先生・スクールサポーター

12:10～ 給食 “もく食でモリモリ!”
 ・給食当番は白衣
 (配膳を補助する担任は、エプロン着用)
 ・お代わりする児童はマスク着用
 ・牛乳パックを洗ったら、アルコール

ワゴンへ返却
 おたまやトングなど…1組の食缶へ
 残った食材…2組の食缶へ

12:50 そうじ
 ・マイぞうきん
 ・教室、廊下、階段、玄関、トイレ
 (特別教室は掃除なし)

児童下校後 2回目 消毒
 (各箇所の掲示物参照)
 担当:各階の担任

ストップ

・37.0℃より上
 ・健康チェックの
 症状が1つでも
 「ある」に該当

家庭からの連絡がない場合は、確認するまで教室へ入れません。

水筒を必ず持ってきてきましょう。

「症状あり」で連絡なく登校した場合
 ①会議室で待機 ②電話で確認

自分のつばがとばないようにマスクをする

手洗い

- ・教室へ入る前
- ・授業・休み時間の後
- ・トイレの後
- ・教材や道具をさわった後
- ・図書館の前と後
- ・給食の前と後
- ・そうじの後

①休み時間ごとに5分間、まど全開
 ②常時、換気扇使用・戸は開放

たいいく・休み時間
 マスクをつける

しばらく中止

休み時間
 外へ出ない人は自分の席ですごす

今はが・ま・ん
 仲間とマスクして1mはなれる

しばらく中止: ドッジボール・大縄・鬼ごっこ
 呼気が激しい種目
 ※ 他の種目は、要相談

学習
 しばらく中止

学習
 しばらく中止

しばらく中止: 班隊形・合唱・リコーダー・鍵盤ハーモニカ
 一斉の音読や発声・調理実習
 ※特別教室(理科・図工等)を使用する場合は要相談

配せん台をひくペーパータオル(1～2枚)

給食
 食べる前にマスクをとって食べたらマスクをすぐつける

つかわるのは、必ずマスクをつける
 ならぬ顔は、フェイスガード

【上ぶき・下ぶき】マイぞうきんを使う
 【トイレ】手ぶくろをつける(保健室に取りに来る)

みんなで協力して感染を上げないための生活をしよう!
 学校でも 学校以外でも

心も体も元気になるようにねがいましょう

トイレ掃除は、
 ①保健室へ手袋を取りに来る
 ②保健室で使用した手袋を処分

・シトラスリボンの意味の確認
 ・早田小「なくそういじめ」を再確認




9月はじめに、下記のセミナーに参加しました。このセミナーを受講して、「ぜひ、ご家庭にコロナに関する各専門家からの情報をお届けしたい」と思い、内容の概略をまとめてみました。よかったら、ご参考ください。

日本学校保健会・文部科学省 主催

『今、求められる学校の感染症対策セミナー』に参加して

1. 感染症専門医より

◇全国の感染者(8月末時点)

- ①世界：2.18 億人 死者：454 万人 致死率：2.1% (100 年前に流行したスペイン風邪と同等)
日本：156 万人 死者：1 万 151 人 致死率：1.07% (日本は決して低いわけではない)
- ②8月末から1週間の感染者増加率
新規感染者：世界で5番目(急激に増加した)
年齢別：10歳未満、10歳代が急増  オンライン学習や分散登校の措置をとった理由

◇ワクチンの新情報

<ワクチンを2回接種した場合>

- ・ワクチン接種後、感染しても軽症となる場合が多く、致死率を低下させる効果が期待できる。
 - ・ワクチンを接種しても感染したり、感染させたりする可能性があるため、引き続きマスクを着用する等の感染予防に努める。
- ※現段階では、身近な人を守るため、ワクチン接種後のマスクは外さないようにする。

2. 文部科学省より

◇情報のアップデートをし、命を守る行動をとる

- ・ウイルスのマイクロ飛沫化しているため、密になる場面では、不織布マスク使用を推奨。
- ・家族内感染がほとんどだが、市中感染(感染経路不明)も増加傾向。

<徹底すること>

- ・正しい方法でのマスク着用する。
参考：電車で隣の座席の陽性者が鼻出しマスクだったため感染した事例あり。
- ・部屋を密閉せず、常時換気をする。
参考：密閉した部屋でエアコンの風が通った場所一帯の人が感染した事例あり。
- ・消毒を過信せず、流水で手洗いをする。
参考：アルコール消毒を過度に実施すると、皮膚がただれてウイルスが付着しやすくなる場合も。